



差はなく、いずれの種芋を使用しても長崎県における早掘りマ
ルチ栽培での目標収量300キ
ロ／畝をおおむね確保できました

バレイショ「アイマサリ」 低コストで4月出荷 一期作産種芋が適す

種芋の来歴と生育および収量の関係

種芋の来歴	出芽期 (月/日)	茎数 (本/株)	収量 (kg/a)	1個 平均重(g)	L以上 割合(%)	皮むけ 程度
春作産冷蔵	2/16	7.4	283	65	33	1.0
一期作産	2/23	4.7	304	72	40	0.8
秋作産温蔵	3/2	2.1	329	108	64	2.7

※2018, 2019年の平均値 ※植え付け日: 1月16日(2018, 2019) 収穫日: 4月27日(2018), 4月22日(2019) ※栽培期間におけるべたがけ資材の使用なし
※皮むけ程度は塊茎面積に対する皮むけ割合(%)を以下の指標を用いて5段階評価
各来歴, Lサイズ45個を調査した平均値
0: 0% 1: 5%未満 2: 5~15%未満 3: 15~25%未満 4: 25%以上

長崎県の春作バレイショはマルチ栽培が主流で、5月中下旬に出荷が集中することから、4月出荷の割合を高める技術確立が求められています。県育成品種「アイマサリ」はジャガイモシストセンチュウとジャガイモYウイルスに抵抗性があり、主要品種である「ニシユタカ」と比べ1個平均重が重く、芋の肥大が早い特性があるため、低コストで早期出荷が可能な品種として期待されています。

そこで、4月収穫に適した種芋を明らかにするために、来歴の異なる種芋を用いて生育と収量を検討しました。

また、秋作産温蔵種芋は1個平均重は重いものの、収穫時に

未熟で皮むけの発生がみられたことから、「アイマサリ」の4月下旬収穫には、皮むけが少ない一期作産種芋が最も適していると考えられます。

(長崎県農林技術開発センター
農産園芸研究部門馬鈴薯研究室 松本健資)